

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第528号 平成25年4月15日

雪が解けたら

ようやく風が春らしく、清々しさを感じる頃となりました。あれほど悩まされた雪も、日に日に解けて、雪の割れ目から新しい命の息吹を感じます。

北海道に住む者にとっては、「雪が解けたら春になる」というのはごく自然の実感ですが、これについて、とても考えさせられる逸話が残されています。

それは、概略以下のような話です。

東北地方のある小学校で、教師が児童に「雪がとけたら何になる？」と質問しました。

殆どの子ども達は「水になる」と答えたのですが、「春になる」と答えた子が1人だけいたそうです。

その子の答えに対して教師は、×を付け不正解にしました。

この教師と子ども達とのやり取りがどのような場面で行われたのかわかりませんが、「雪が解けたら春になる」という情感豊かな答えを単純に不正解にした教師の硬直的な姿勢に対して、〇×方式の教育の弊害といった視点で批判する方が多いと思います。

私も、以前この話を聞いた時に、皆が「雪が解けたら水になる」と答えている時に、教師にとっては想定外だったかもしれませんが「雪が解けたら春になる」と答えたその子の感性をちゃんと受け止めて評価すべきだったのではないかと感じたものです。

現実の世界は答えが1つでない事の方が多く、訳で、「雪が解けたら水になる」という答え以外の答えがあっても良いのではないかと、今でもそう思っています。しかし最近、もう少し別の観点からこの問題を考えて見なければいけないなと思い始めています。

例えば、理科の授業の中で、雪がどのようにして出来るのかといった勉強をしているとします。

例えばこんな具合に（平成24年12月26日付「毎日小学生新聞」から）。

雪は雨の仲間。雨と同じでき方をします。

雨は雲から降ってきますね。雲は、地面や空気中の水蒸気が、上昇流に乗って空に舞い上がってできます。空の高いところは気温が低いため、水蒸気は冷

やされて水や氷の粒になります。これらのあつまりが雲です。

雨は、雲の中の水や氷の粒が下降流に乗って地面に落ちてきたものです。水の粒と氷の粒がぶつかりあったり固まったりして氷の粒になり、雲から地面に落ちた時、地上付近の気温が高くて溶けたら、これも雨です。溶けないで落ちてきたら……そう、雪になるんですね。

つまり、雪と雨は仲間であり、雪の元は水の粒や氷の粒という事ですから、「雪が解けたら何になるかな？」との問いに対しては「水になる」という答えが返ってくるはずです。

にもかかわらず「春になる」という答えが返って来たとするれば、教師の教え方に問題があったかも知れませんが、答えた子供が授業をちゃんと聞いていなかった可能性もあります。そうすると、教師の硬直的な姿勢を云々する前に、教師の授業力の方を問わなければならないという事にもなります。

また、季節の変化等について学ぶといった授業の中で、40人中39人までが「雪が解けたら水になる」と答えたとするれば、それはまたいささか異常で、こんな答えしか導き出せない授業は、それこそ×という事になるでしょう。

発問と答えは、キャッチボールに似て、良い球を投げてやらねば良い球は返って来ません。畑に蒔いた種も肥料や水をやり、十分に手を加えて初めて綺麗な花を咲かせる事が出来る様に、授業に当たっては手を抜かず、入念な準備をしてこそ、子ども達は生き生きとした反応を見せてくれるのだと思います。勿論、それでも、想定外の答えが返って来る事があるでしょう。その時は、大いに驚き、感心し、発想のユニークさ、着眼点の奇抜さ、何処か良いところを見つけて、大いに褒めてあげたら良いのではと思います。(塾頭：吉田 洋一)